

# 松戸市立病院新生児科における慢性呼吸循環不全児のフォローアップシステムについて

松戸市立病院新生児科

竹内 豊, 長谷川 久 弥

## 研究目的

近年の新生児医療の進歩によって、従来では早期に死亡していたような呼吸障害をともなった超未熟児なども生存可能となってきた。しかし、それにともなって、長期間機械的人工換気や高濃度酸素療法を必要とするような慢性呼吸不全の児の管理が問題となってきた。今回、我々は慢性呼吸・循環不全児のフォローアップ体制を確立するために、当院で経験している慢性呼吸・循環不全児の実態につき調査した。

## 対 象

昭和58年4月～61年3月の3年間に松戸市立病院新生児科に入院したハイリスク新生児は1798名であった。このうち30日以上機械的人工換気あるいは酸素吸入を必要とした慢性呼吸不全児を対象として検討した。

## 結果と考察

### 1. 慢性呼吸不全児の発生

1798例中117例(6.5%)が数えられた。その具体的内容については表1に示す。年度別の傾向としてはRDS単独例と無呼吸発作例の減少がみられるが、これは前者については人工サーファクタント使用による影響が、後者については呼吸刺激剤の変更と血中濃度のモニタリングが可能になったことの影響と思われる。

### 2. BPDとWilson-Mikity syndrome(以下W-M synd)の発生

新生児慢性疾患のうち、代表的なBPDとW-M syndについて検討した。対象として3年間で24例のBPDと12例のW-M syndが発生している。28日以内の新生児死亡を除いてみると、1000g未

満の児での発生は両者ともに6/38(15.8%), 1500g未満の児まで含めるとBPDでは19/197(8.1%), W-M syndでは11/197(5.6%)の発生であった。これらの症例を出生体重別にみると、BPDでは1000g未満の児は6/24(25%)で1500g未満まで含めると19/24(79.2%)であった。W-M syndでは1000g未満は6/12(50%)で1500g未満まで含めると11/12(91.7%)であった。在胎週数でみると両者とも26週から27週にピークがあり、1例を除いて32週未満であった。

### 3. BPDの人工換気および酸素投与日数

図2に示すごとく、120日以内に死亡した1例を除く残り23例のBPDの症例を検討してみると、全例が人工換気を施行されており、日齢30では人工換気は5例が中止できたが酸素投与は全例が受けており、日齢60では人工換気19例、酸素投与20例、日齢90では人工換気7例、酸素投与12例、日齢120でも人工換気3例、酸素投与8例が施行されており120日以上人工換気を施行された3例はその後換気不全、肺炎などにより全例死亡している。

### 4. W-M syndの人工換気および酸素投与日数

図1に示すごとく、120日以内に死亡した2例を除く残り10例のW-M syndの症例を検討してみると、人工換気を必要としなかった症例は2例あり、日齢30では1例が酸素を中止でき、6例が人工換気を施行されていた。日齢60では人工換気2例、酸素投与8例、日齢90では人工換気1例、酸素投与4例、日齢120では人工換気を施行されている症例はなくなり、酸素投与も1例のみが施行されていた。

5. 新生児慢性肺疾患例の入院日数

BPDおよびW-M syndの入院日数毎の症例数の推移を図3に示す。死亡例を除いた症例で日齢120の時点では、BPDの症例では9/20(45%)が退院し、W-M syndの症例では4/10(40%)が退院している。日齢210の時点では、BPDの3例が入院中で、W-M syndでは全例が退院していた。

これら長期入院を必要とした症例は、長期にわたり酸素投与を必要としたため退院できなかった

症例がほとんどであり、今後家庭内酸素療法等の適応となる可能性のある症例であると思われた。

結 語

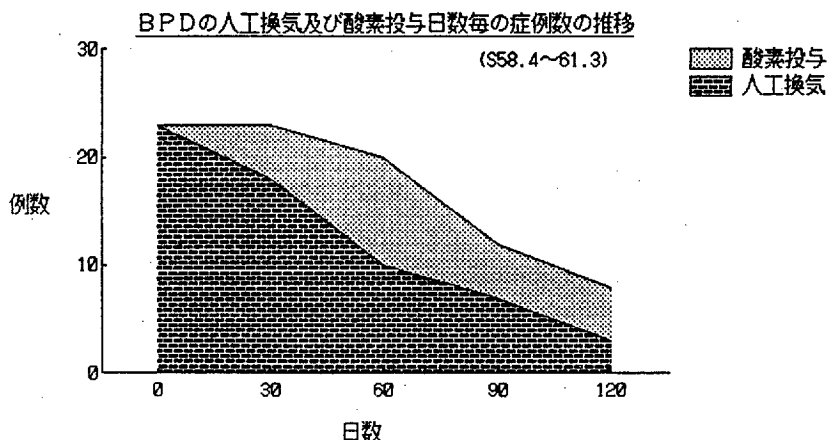
今回、新生児慢性肺疾患を中心にその発生状況および入院中の経過について報告した。

今後はフォローアップとして退院後の経過、予後の検討、および入院日数の短縮を目的としたDexamethasone療法および家庭内酸素療法等の可能性も併せて検討していきたいと思う。

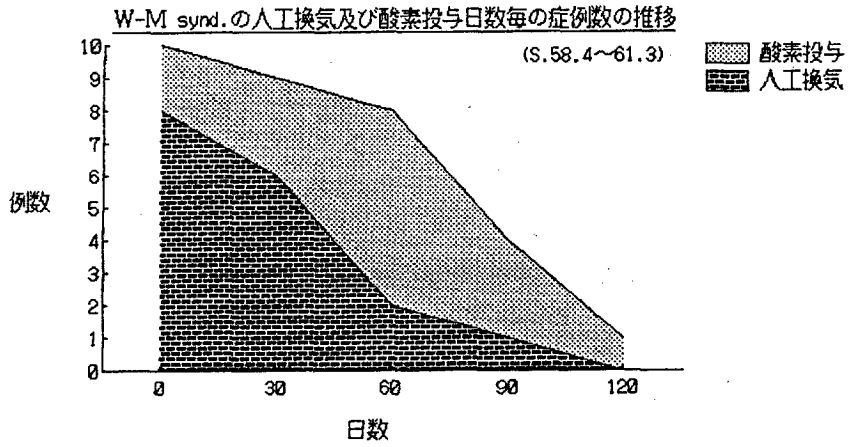
(表1)

30日以上酸素投与もしくは人工換気を施行した症例  
(心疾患を除く)

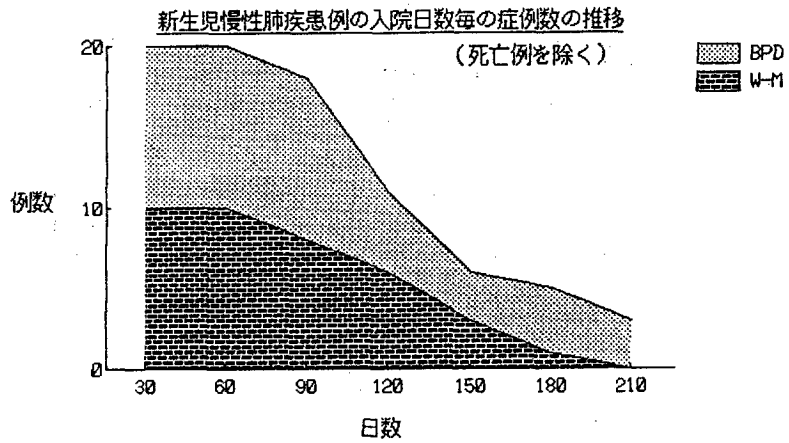
年度	総数	RDS	肺炎	W-M synd.	無呼吸発作	RDS ↓ BPD	Others ↓ BPD	RDS + Others	仮死	Others
58	44	8	1	3	14	8	1	2	1	6
59	46	5	6	3	16	4	4	3	3	2
60	27	2	2	6	3	5	2	1	3	3
合計	117	15	9	12	33	17	7	6	7	11



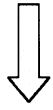
(図1)



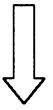
(図 2)



(図 3)



**検索用テキスト** OCR(光学的文字認識)ソフト使用  
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



#### 研究目的

近年の新生児医療の進歩によって、従来では早期に死亡していたような呼吸障害をともなった超未熟児なども生存可能となってきている。しかし、それにもなって、長期間機械的人工換気や高濃度酸素療法を必要とするような慢性呼吸不全の児の管理が問題となってきている。今回、我々は慢性呼吸・循環不全児のフォローアップ体制を確立するために、当院で経験している慢性呼吸・循環不全児の実態につき調査した。